

【2026 年 8 月 5 日】

送付枚数 本票含め 3 枚

報道機関 各位

文部科学省「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」に採択されました

大暑の候、貴社におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、山口大学が提案したプロジェクト「EPOCH 山口大学先端研究基盤拠点形成プロジェクト」が、文部科学省の「先端研究基盤刷新事業（EPOCH: Empowering Research Platform for Outstanding Creativity & Harmonization）」に採択されました。

本事業は、我が国の研究基盤を抜本的に刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するため、大学等の強みや地域性を活かしたコアファシリティ（機器・設備の全学・学外共用）の戦略的整備や高度化を支援するものです。

本学では、これまで推進してきたコアファシリティ化の取組や県内機関との「やまぐちファシリティネットワーク」の成果を基盤に、今後 10 年間で研究 DX の推進、常盤キャンパスでの「先端研究基盤共創棟」の新営、ならびに高度専門人材（技術職員・URA）の育成・強化を一体的に推進します。これにより、特に中四国地域における関係機関等とも緊密に連携しながら、地域産業と連動した自律的な研究基盤エコシステムを確立し、我が国の研究基盤の一翼を担うことを目指します。

【本事業の概要および主な取組】

1. プロジェクト名：

EPOCH 山口大学先端研究基盤拠点形成プロジェクト

2. 事業期間：

令和 8（2026）年度 ～ 令和 17（2035）年度（10 年間）

3. プロジェクト体制：

【プロジェクト統括】上西 研（山口大学 副学長・学長特別顧問）

【参画機関】東京科学大学、新潟大学、金沢大学、広島大学、一般社団法人研究基盤協議会、
地方独立行政法人山口県産業技術センター、日本電子株式会社、株式会社島津製作所

4. 主な取組内容：

- (1) 常盤キャンパスへ「先端研究基盤共創棟」を新営（共創拠点「X（クロス）ベース」の形成）
先端研究基盤共創棟に分析機器と高度専門人材を集約し、世界トップシェアを有する地域素材産業（半導体部素材等）の R&D に対し、最先端機器群と構造解析コンサルティングをセットで提供する『高度解析ハブ』を構築します。
- (2) 新組織「研究開発基盤本部」の発足と組織改革
既存の共用組織を再編統合し、学長直下に「研究開発基盤本部」を設置。営業・マーケティングを担う「カスタマーリレーションズ部門」等を新設し、産学連携・受託解析を強力に牽引します。

(3) 最先端機器の導入と研究 DX（スマート解析・Autonomous Lab）の推進

電子顕微鏡（SEM/FIB）や次世代シーケンサー等の最新機器とともに、AI 自動解析や遠隔・夜間無人稼働システムを導入し、全国から利用可能なスマート研究環境を整備します。

(4) 高度専門人材（技術職員・URA）のキャリアパス刷新

技術職員の既存のキャリアパスをさらに上位へ拡張するため部長級ポスト「上席主幹」を制度化。インセンティブ手当や学生向けインストラクター育成制度を通じ、研究支援体制を強化します。

【谷澤学長コメント】

この度、文部科学省の EPOCH 事業に採択されたことを大変光栄に思います。本プロジェクトは、同日に採択された内閣府の「地方大学・地域産業創生交付金（山口県）」とも連動させながら、単に研究機器の更新・導入にとどまらない取り組みです。大学が持つ『知・人・資金』という投資を地域産業の未来像と完全に同期させ、自走可能な『研究基盤エコシステム』を築く挑戦です。

AI やロボティクスを取り入れた先導的な研究環境と、研究者に寄り添う高度専門人材の育成を通じ、若手研究者が心置きなく挑戦できる魅力的な研究拠点を創り上げてまいります。本プロジェクトに参画する全国の大学や研究機関、企業等と強力的に連携し、我が国の研究力・研究開発力の向上や研究環境の抜本的な高度化を牽引するとともに、地域イノベーションの活性化に貢献できるよう、全学一丸となって取り組んでまいります。

【お問い合わせ先】

国立大学法人山口大学
リサーチファシリティ
マネジメントセンター事務室 渡邊・鍵谷
TEL 0836-85-9870
E-mail sh082@yamaguchi-u.ac.jp

発信者 国立大学法人山口大学
総務部総務課広報室
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
TEL 083-933-5007
FAX 083-933-5013
E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

提案大学

山口大学

連携大学

EPOCH山口大学先端研究基盤拠点形成プロジェクトの全体概要

■ 研究基盤刷新ビジョン2035(2035年に目指す姿)



1. オープンサイエンスによる 新たな価値の創出

AI・ロボットを活用した基盤・先端機器から良質の実験データが次々に生み出され、それらのデータの利活用による新たな価値を創出し続けている



2. 産学公の多様な知が共鳴する場 から生まれる共創の連鎖の拡大

若手研究者と高度専門人材を中心に、産学公の垣根を超えた多様な人材が共鳴する魅力的な場から生まれる共創の連鎖が広がり続けている



3. 我が国の研究基盤の一翼を担う 研究基盤エコシステムの確立

中四国地域の関係機関等とも密接に連携し、我が国の研究基盤の一翼を担うための研究基盤エコシステムを確立している

■ 第1フェーズ(当初3年間)の重点取組

① 統括部局の改革

「研究開発基盤本部」を新設し、全学リソースの最適化と迅速な意思決定によりエビデンスに基づく経営(EBM)を実践する体制をさらに強化する

② X(クロス)ベースの構築

共創棟に基盤・先端機器と高度専門人材を集約したX(クロス)ベースを構築すると同時にデータマネジメント体制を強化する

③ 顧客満足度の最大化

アウトリーチ型営業と顧客関係管理を徹底することにより、顧客満足度を最大化し、民間企業からの受託解析を大幅に拡大する

④ 中四国の大学等との連携構築

やまぐちファシリティネットワークの仕組みと経験を活用して、中四国地域における研究設備・機器と高度専門人材を共有する体制を構築する

■ 第2フェーズ(それ以降)の重点取組

① 共用システムの高度化

これまで積み上げてきた機器利用実績・成果集計システムや顧客関係管理システムにAIを活用して統合し、共用システムを高度化する

② 次世代技術職員の輩出

研究機器インストラクター育成プログラムを発展させた技術職員育成システムを活用し、優秀な技術職員を全国の研究機関に数多く輩出する

③ 財務基盤の強化

機器利用と受託解析等による収入に加え、減価償却引当特定資産等と間接経費の研究基盤への戦略的配分により、強固な財務基盤を創り上げる

④ 中四国ネットワークの高度化

中四国の大学等全体に共用システムが定着し、明確な役割分担のもとで、各大学等が強みを発揮することにより、全国の研究基盤の一翼を担う

■ 実施計画

	1年目	2年目	3年目	4年目以降
①研究基盤・データの整備	機器の戦略的導入・更新	自動化・遠隔化の推進	データパイプライン構築	新たな価値の創出
②X(クロス)ベースの構築	新棟着工	X(クロス)ベースの立ち上げ	X(クロス)ベースの充実	共創の連鎖する場の構築
③エコシステムの確立	研究開発基盤本部設置	アウトリーチ営業の展開	収益拡大モデルの確立	研究基盤エコシステムの確立
④技術職員の質と量の拡大	技術職員の増員	他機関との人事交流	技術職員育成システムの構築	次世代技術職員の輩出